



学校だより

## 子どもの未来をみんなで創る

令和5年 1月号

神奈川県立相模原中央支援学校

令和4年度も最後の学期、3学期を迎えました。

下段で総務グループリーダーも触れていますが、新型コロナウイルス感染症についてこれまでの経緯を振り返り、現状を確認させてください。

最初の波は2020年4月、この時の一日の患者数は720人でした。第2波は2020年8月で患者数は1,600人、ちょうど2年前、2021年1月の第3波による緊急事態宣言の際には、一日の感染者数は7,900人ほどに拡大しました。

その後、第4波は2021年5月、約7,000人、第5波は2021年8月、約26,000人。

2022年に入り第6波は2月、約10万人、第7波は8月、1日当たりの感染者は26万人まで急激に拡大しました。波は来るたびにどんどん大きなものになってきたのです。

現状は、10月中旬から一日当たりの新規感染者数はまた増え始め、今もまだピークを迎えていないように感じます。国として患者数の全数把握をやめたため、正確な数はわかりませんが、既に第7波のピークを越えているのでは？との見解もあるようです。

そんな中で給食時の会話について緩和が開始されるのは、この感染症への対応方法が明確になっているからです。具体的にはこれまで通りの対応です。換気・消毒・適切な距離と必要に応じたマスクの使用です。こちらを守って3学期の教育活動も安全に継続していきたいと考えていますので、御家庭でも御協力をお願いします。《副校長 窪田 譲》

### 『給食』と『小児医療的ケアモデル』のお話！！

#### ○3学期からの給食について

※ガイドラインより一部抜粋

県のガイドラインにより「※座席配置の工夫や適切な換気の確保等の措置を講じた上で、食事場面において、児童・生徒等の間で会話を行うことも可能」となりました。安全な状況を確認できる学年やクラスから始めていきたいと思えます。給食も大事な学びの場。換気、机を向い合わせにしない、大声での会話を控える、座席の間隔を1m～2m以上とるなどしっかりと対策を行い、食育としてのコミュニケーションと感染症予防の両立を目指して取り組んでいきます。

#### ○小児医療的ケアモデル「まーちゃん」！！

令和4年度も保護者の皆様の御協力もあり、校内でも看護師と医ケア担当教員との連携で順調に実施できています。

そこで、本校の安心・安全な医療的ケアに大きな役割を担っているのが写真の小児医療的ケアモデル「まーちゃん」です。

まだまだ医療的ケアには不慣れな教員は、実践の前にこの「まーちゃん」で練習。経鼻経管や胃ろう、人工鼻の取扱いなど看護師と練習を繰り返し、手技力と自信をつけてから実践に取り組んでいます！



《総務グループ 的場真也》